しゃぼん玉をふく

46の表情

清水エミ子

○藤棚の下でにこにこしてふいているH男
○ブランコに腰掛けて声を出して喜こんでいるK子
○おすべりの近くで足をバタバタして喜こんでいるY夫
○嬉しくてじっとしていられず手あたりしだい近くの子に話して飛び上っているS枝
○鉄棒によりかかって悲しそうな顔で何回もやりなおしている○子
○庭の真ん中で地面を片足でけとばし、顔をしかめてくやしがっているB男
○一人だけでたりず、他の子にしがみついてくやしがっているA男

数えあげていったら46名全員がそれぞれちがった感情の表し方をしていることに気づいたのです。今までででも、この子はこういう表現の仕方をする子だな、この子は内気で感情を表に現さないが、これで結構うれしいのだなぐらい、今までのいろいろの活動で不確かながら解っていたつもりだったのですが、今年度、七月と九月の二回、子どもの要望もあってシャボン玉あそびをやってみて、子どもたち一人ひとりうれしい時と困った時の感情の表現に違いのあることを知らされたのです。そしてその感情が遊びの発展によって変化していき、よろこびの発見と同時に表情も豊かに、素直な表れになっていくことを知らされたのです。

そのいくつかを具体的な活動の展開をおってお知らせしましょう。

I　困った顔が笑顔に変ったM男（Mは我が強く感情表現のあまり

豊かでない子）

・よくばりの気持がこまった表情を作り、それが努力しようという気持ちに変り、よろこびの笑顔ができた

よくばりのM男は長いストローを箱から取り出し、それを石けん水につっ込んで吹くが一向にふくらまない。バチリとストローの先でわれてしまう。悲しい顔が真けんになる。二回三回ストローをよくつっ込んでそっと吹くがやっぱりわれる。すこしなげやりになって、まわりを見まわすと短いストローの子たちが大きいのを二つも三つも作っている。

短かくしよう　「そうだ、ハサミで切ってこようー」と室に入る。

短かいのでやるとよくふくらむ。

第一回にふくらんだ時、「アッハッハ、できるや」と今まで聞いたこともないすんだ声で笑った。そして「もっと短かくしよう」とハサミで切ってきた　すると顔より大きいのができ、そのうえそれが割れずにストローの先にぶらさがった　うれしくて声も出ないようすだった。それを近くにいたお友たちがみつけ、「わー、Mちゃん大きいどうやったの」と聞くと「ストロー短かくしたんだよ」とするとひとりの子がMのストローと較べた。Mの方が2㎝位長かった。まわりにいた子どもたちはみんな考え込んでしまった

ぼくの先っちょななめになってるよ　するとMが自分のストローをながめて「アッわかったや、ぼくの先っちょ　ななめになってるよ、ほら」とみんなにみせた。それからななめに切ることが大流行、よくふくらまないのを見るとM男は「ななめに切ってごらん、大きくなるよ」と教えていた（この頃はみんながシャボン玉のふき方になれて上達してきたことも加えてみんな大きいのができるようになった）。M男がこんなに表情豊かに、そして、多くの子と口をきき交れたのは入園以来はじめてである。

Ⅱ　足で地をけって困っていたB男

（何事にもあきっぽくうつり気の子）

どんな活動でも終りまでやりとげたことのないあきっぽい、落ちつきのないB男が庭のまん中で顔をしかめながらシャボン玉を吹いてはくやしそうに片足で地面をけっている。

私はまたあきたな、と思いながらみていると、小さい玉はたくさんでている　へんだなと私はそっときいてみた。すると、「どうも大きくならないんだよ、くやしいなあー」といって地面をけっている。

そして、くやしまぎれにストローをびんの底に力まかせにおしつけている　何回かやっているうちに一つ、ぽかーっと大きいのができた　「アッ、できたよ、先生」ととびあがってよろこんだ。私がみていた間たけでも二分間もたっていた　この子が二分間集中できたのは最高だなと思っていると、うれしさにとびあがったひょうしにストローと石けん水を少しこぼした　ストローを拾おうとして腰をかがめたB男は私に「先生ストローこんなになってるよ」と言った。

先が割れるとこんなになるよ　みるとストローの先がいくつかに切れていた。くやしまぎれに底にストローをおしつけているうちに、切れて、朝顔のようにひろがっていたのだ。これを発見したB男は先が割れると大きいのができるよ、と数人に教えていた。それから十分間以上B男はシャボン玉をふきながらオスベリに乗ったり、ブランコに乗ったりしていた。

Ⅲ　顔だけでにこにこよろこんでいるA男　藤棚の下で一人みんなからはなれてにこにこしながら吹いているA男が目についた。

（一学期間かかっても友だちができず何をするのもろく、感情など一向に表さない子、他の活動では他の子や教師がみるとすぐやめてしまう内気な子）

私はおっかなびっくり近よってみた（すぐ通りぬけてしまうつもりで）。

ふたついっぺんに出るね　「先生、どうして一ぺんにふたつでるの、ふたつ目は小さいけど、きれいだね、ひとつめは大きいけど白いだけだよ、どうして」私はふいをつかれてとっさにことばがでなかった。今までこんな大きな彼の声はきいたことがない。耳をうたがったぐらいだ。「ほらね」と顔中くしゃくしゃにして笑っていた。

A男はこの後一週間、家にかえると妹とシャボン玉をしていたという事だ。

Ⅳ　近くにいる子にしがみついてよろこんだS枝

（だれにも好かれる明かるい素直な子）

五、六人でかたまってしゃべりながらシャボン玉を吹いていた。

かたまってシャボン玉するとかたにとまるよ　K子が吹いた一つのシャボン玉がよこにいた友だちの肩にくっついた。みんなアッとみつめた。その瞬間、S枝は反対側の友だちにしがみついてよろこび、とびはねて笑っていた。「くっついちゃった。くっついたね、かたまってシャボン玉やったら肩にくっついちゃったね」と大はゃぎ。

この子たちのグループはそれから、そこらにいる友だち、だれかれかまわず、肩にくっつけてあるいていた。くっつけられて仲間に入っていく子、耳のそばでパチンと割れてびっりして笑い出すグループ、肩にくっつけっこが大流行した。その時、「S枝ちゃん、肩にくっつけようとすると二つでて来て、だるまになっちゃうんだ

よ』と一人が困った顔で相談して来た。「ふうん、やってごらん」とだるま作りをみていた

Ⅴ　人のとばすのをみてとびはねてよろこんでいるC子

（何でも人のをみて楽しむ子、自分から積極的に活動しないし表情も豊かでない）

「きれい、きれい」とふくらましている子の前に立ちふさがって喜こんでいたが

一ぺんに五こもでたよ　「アッ、五こもでたよ」「いっぱいでたよー」ととびはねてよろこんでいた。すると吹いていた子が吹きながら目で「いっこ、にこ」と数えるが、数えるのに気をとられるとシャボン玉が思うように出なくなるのでC子に「あんた数える人ね」と言って、数え係と飛ばす係が生まれ、代るがわるにやるようになった。これをみて、そこここで組ができ、数え係が数えていた。

ぎゅっと吹くといっぱいいっぺんにでるよ　そして、「ぎゅっと吹くといっぱいでるぞー」とおすべりの上で男の子の組がどなっていた。それから、しばらくはプーフーと力まかせに吹くことがはやった。

Ⅵ　ブランコに腰掛け、声を出して笑ってよろこぶK子

（友だちのない、いつでも淋しい顔をしている子、友だちのさそいにも自分からさけてしまう子）

アブクブクブク　きいたことのない笑い声がブランコからきこえて来る。みるといつもブスッとしているK子だ。みているとストローを石けん水の瓶につっ込んでブクブクやって、アブクがもり上ってびんからこぼれ、手にくっつくと、声を立てて笑っているのだ。そしてフッフッと息をかけて、上からたんねんにつぶしていき、なくなるとまたブクブクやっていた。しばらくして、隣のブランコに男の子がのって来たがK子のを見てまねていた（毎年のシャボン玉とばしはすぐにこのブクブクがはやったのだが、今年はこの子が一番先であまりやる子がいなかった）。

K子は、隣の男の子がブクブクをやるのを見てこぼれてくると声を立てて笑った。はじめK子に笑われるとびっくりして見ていた男の子もしまいに二人で顔をくっつけてブクブクやり出した。その日一日、二人は座席もいっしょに並んで座り、おべんとうもいっしょにたべていた。

Ⅶ　おすべり台の近くで足をハタハタさせてよろこんでいるY夫

（いつも人のいない所で、いたずらをして困らせ、しかられても顔の表情一つ変えない子）

上にあがらないでくっついた　おすべり台の鉄の棒にきれいなシャボン玉が一つくっついて光っていた

「くっついちゃった、くっついちゃった、われないぞ」と足をハタハタさせてよろこんでいた。私はあのいたずらぼうずの、ブスさんがとびっくりしたし、こんなことの方が簡単によろこびを表現できるのだなあ、とシャボン玉の力の不思議さにちょっとこわささえ感じたのだ。

Y男はおすべり台の下にもぐり、鉄棒にストローを近づけて、そっと吹いていた。鉄棒に当ってこわれると「チェ」と舌打をしてくやしがり、くっつくと足をバタバタさせ「くっついた、またくっついた」と声を立ててよろこんでいる。通りがかった友だち（悪友）に「風があるからわれるんだよ、おへやでやれば」と言われて、二人手をつないでおへやにかけ込んだ。

家ん中だととばないでこわれちゃうね

入口の柱にくっつけていたが、人の出入でうまくいかない。それをみて庭のはしらにつけていた子もあった。室の真ん中でプーと吹くと、上にあがらずに机の上に落ちてくっついた。「アッ、くっついたー」と大よろこび、もう一人の友だちは、とばそうと懸命にストローを上向けて吹くが、プスンとこわれて一つもとばない。

口ん中に石けんが入っちゃった　いっぱいストローに石けんをつけて上向けて吹こうとして口に石けんが入ってにがい顔をした。「口に石けんが入ちゃった。石けんにがい」と口をすすいだ。Y男は椅子に腰掛け、一心に机にシャボン玉をくっつけていた。

机にこぶたんできちゃった　ようりょうの解ってきたY男はストローを近づけて吹き、いくつも机にシャボン玉をくっつけていた。四つ、五つくっつけた時、「机にこぶたんができた」とまた大よろこび。これをみて室にいた五、六名がみんなまねはじめた。

机にストローくっつけて吹くと大きいのができるよ　そのうちの一人が机にストローをはすにくっつけて吹くと、大きくふくらむことを発見した。

その時、ちゃめで何にでもちょっかいをだすHがとび込んで来て、ストローの先で机の上のY男の作った大きなシャボン玉をつっついて割ろうとして、さわったついでに口を近づけてプッと吹いた。

割ろうと思ったらもっと大きくなっちゃった　割れる前に大きくふくらんでパチンと割れた。それを見てY男は「わあーもう一回シャボン玉ができたね」と言って足をバタつかせ、H夫は「割ろうと思ったらもっと大きくなっちゃった」と二人顔をみ合わせて大笑いし、次に机にくっつけたシャボン玉をもう一度そっとストローをくっつけて大きくして割ることをやり出した。そして室に入ってくる子たちに「机にくっつけてまた吹くと大きくなるよ」と教えていた。そのうちに机にくっつける子と、それを大きくふくらます子と、二手にわかれてやることがはやり「はやくくっつけろよ」「まっ

てろよ、いそくとわれちゃうんたよ」と大へんなさわきになり、机の上は石けん水でひしょひしょになって来た

割れると机にまるがかけるね　「アッ、割れると机にまるがかけるぞ」

「どこのが一番大きいか、較べるからね」と大発見のY男は大声でどなった。

机の上でおすもうしたわよ　その時、室の一番おくで二人の女の子が椅子に座ってしずかにシャボン玉をしていた。

「あのね、Yちゃん、二人でいちにのさんでシャボン玉、机にくっつけるといっしょにわれたり、いっこたけ割れたりするよ、おすもうみたいよ　みてみな」とY大にやってみせた。それをみてY男とAは「こっちが大鵬ね」と言い、Y男は「Hちゃん、ぼくらもやろうよ」とやり出した　はじめはただ机の上で、左右から吹いていたが、そのうちY男が「ずるいよ、Hちゃんこっちへ押して吹くんだもの」と争いがおこってきた　そして土俵がかかれ、ストローをつけて吹く位置がきめられ、東と西に分れて、三、四名ずつで勝ち抜きまではじまった。

そして、ストローの先に画用紙のおすもうをつけ「ぼく柏戸ね」「ぼく大鵬と」すもう大会が始まった。

Ⅷ　友だちのやっていることを一人でじっくり確かめてみて、よろこびをかみしめ、にっこりするE男

（理屈屋で人のやることにけちばかりつけて自分で活動しない子）

石けんのヒンとストローを持ってフラフラ庭や室内をかんとくのように歩きまわり、時々思い出したようにふくらましていた。

ふたごができた　室の中ですもうをみていたが、口の中でフッフッ言いながら、隅へ行って、一人で机にくっつけてやっていた　そのうち、すごいかん高い声で「ふたごになっちゃった」と言った室中の子がE男の方をみた。大きなシャボン玉の中に小さなシャボン玉が入っている。一人の男の子が「わー、ふしぎどうやったらできたの」と聞くといつものくせでちょっといはった顔になったが、それはすぐよろこびの顔に変り、にこにこし、今までのかたさはなく、

もう一回石けんつけて机にくっつけて吹くんだよ　「あのね、もっと大きくしようと思ってシャボン玉にね、石けんつけてもう一回吹いたの、そしてね、机にくっつけて吹いたらできたんたよ」とみんなに、子どもらしく説明していた。この姿をみて、あの理屈屋さんもやっぱり五歳の幼児だったんだなと、うれしくてたまらなかった。

中に入らないでくっついちゃう　これを聞いて、三、四名かやっていたがストローを入れようとして、すく割れてしまう子、そっと中に入れようとして早く吹きすぎて外にこぼしてしまう子で、この課題はみんなにいろいろ考えさせ努力させた

シャボン玉ふたりで吹くと引越すよ　いろいろ苦心してふたこを

作ろうとしていた一人が、すこしじれて、隣でやっていた子のシャボン玉をプッと吹いた。すると、その拍子に、大きいシャボン玉は横にヒョイと動いた。E男はこれをみていて、「アッ、シャボン玉がひっこしたよ。」と隣の子の肩をゆすってよろこび、ふたりでシャボン玉をひっこしさせていた。

こっちのひっこしはほんとうのひっこしだよ ひっこしをやっているうちに、一組の二人は向かいあって、いっしょに吹いたら、一人のシャボン玉はとんでしまい、一人のシャボン玉が前にいた子のストローにくっついてわれずにぶるさがっていたのだ。これをみんなまねたが、他には誰もできなかったようだ。

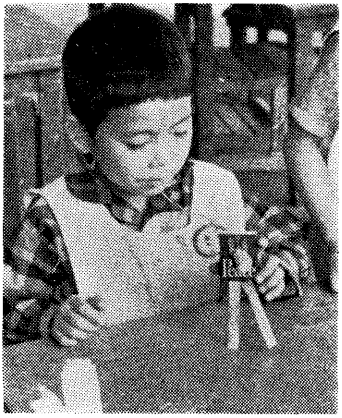
Ⅸ うれしいな。うれしかったな。またやろうね、と一日中よろこんだF男

（ちょっとしたヒントで遊びを考えたり、創意豊かな子）

○ひとりの女の子がビンの中でプクプクしているのをみて、「ぼく夏休み、海にいってかにつかまえた時、かにもプクプクやってたよ。君みたいにだしてた」と言ってしばらくみていたが、

○自分の戸棚からキャラメルの空箱を持って来て、「私にビニールちょうだい、赤いのね」ともらいに来て、机の上でひとりで何やら作り出した。

蟹ができたよ しばらくすると、なかよしの女児を呼びつけて「いちにのさん」で吹いているかわいい蟹ができた。「先生、蟹がシャボンだしてるんだよ」と、とろけそうな顔をしてみせてくれた。



※　※　※

※　※

ひとりでできるかにを作ろう　これをみて、小さい空箱で蟹ができ、ひとりで二本のストローをくわえて、一べんに一つシャボン玉を出していた子もあった。

こんどはたこだよ　F男はひとりでやっている子のをみて、ピースの箱を持ってきて、「こんど、たこを作るよ」とたこを作り出した。「先生、たこの足はいくつだっけ」「八本よ」と言うと「あーそうか」と歌をうたいながら作り出す。ひとり、ふたり机にはだんだん製作者が多くなり、アイテアの交換でいろいろなシャボン玉ができてきた。

X　こんなことをしているうちに、「あたしの箱は蟹作れないからこれでやる」とあきらめから創造したA子

（いつも創意なく、人のまねを上手にしてしまう生活の意欲のない子）

さっそくF男たちのまねをしようと、自分の戸棚に箱をとりに行ったが、あいにく自分の箱はサンスターの細長い箱だ。そこで、しばらく箱を手に淋しそうにしていたが、その箱をストローにして吹いていた。「大きいのできるわよ、口の中がいっぱいでしょ。息がいっぱいいるわよ」と顔をまっかにして吹いていた。私は「すごいわね」と声をかける。

シャボン玉のエレベーター　A子は「これね、先生、シャボン玉がいつまでもなくならないよ。シャボン玉がいったり、きたり、エレベーターみたいでしょー」とうれしそう。みていた子たちもあまり大きいのが出るので「すごいねー」とかん声をあげていた。たこのできあがったF男は、マーフルの箱の底をぬいて、A子といっしょに大きいの作っていた。

XI　ちえっ、ちえっと体全体でくやしがっているZ男は代りのものを考え出した

（なんにでも手が出したくなる子、友だちと同じことがやりたい子）

Z男はF男やA子の大きなシャボン玉をみて、やりたい。しかし、箱がない、近くにいた子に「くれ」というが、誰ももっていない。「ちえっ、やりたいな、でかいの作りたいなー」と体をゆすってくやしがっていたが、昨日作った画用紙の望遠鏡を思い出し持って来て「これでやれるかな」とシャボン玉の中につっ込んだ。「できた、できた。一ぺんに四こもできたぞー」と室中とびまわってよろこんだ。望遠鏡はのびちぢみできるように太いのに細い筒が入っていたので、それにシャボンをつけて吹いたので、一度に二つの大小のシャボン玉ができたのだ。

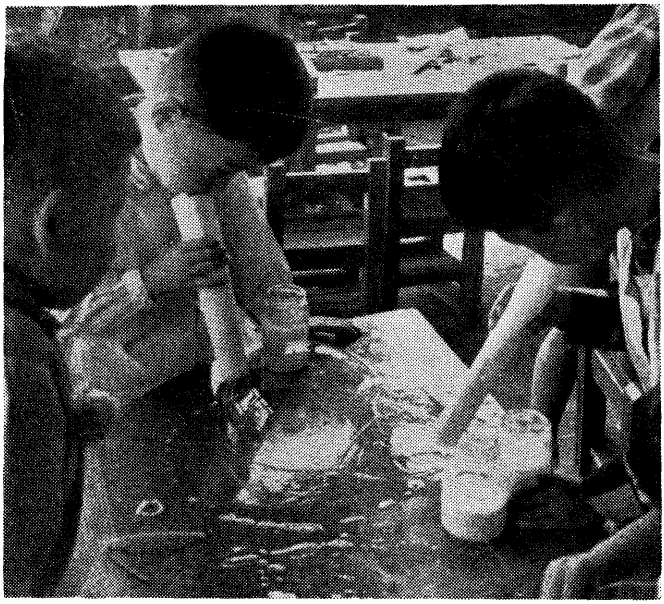
これをみて、男の子も女の子もやり出した。画用紙だけでやるとすぐ、石けん水でびしょびしょになり、切れてしまうので夏の時の舟づくりを思い出したZ男が「クレヨンぬってやってごらん、ぐちゃぐちゃにならないかしれないよ」と教えた。これで机の上には直径25㎝位のシャボン玉がいくつもでき、みな大よろこびだった。

画用紙のストローでシャボンをしたため、机の上は石けん水だら

けになった。

三、四名の女児がそれをかきまわし、フィンガーペイントをはじめていた。

とおりがかりの子どもたちがちょこちょこ手を出して通りすぎていた。



そのうち、フィンガーペイントの手を握ってかきまわし、そっと拡げようとして、指に石けんの膜ができたのをみつけ、そっと吹いてみた。一つきれいなシャボン玉が飛んだ。

手のシャボン玉が飛んだよ この発見で、O子は机の上をかきまわしては手でシャボン玉をつくって飛ばしていた。そのうちシャボンの膜が口にくっつき口でもシャボン玉が飛んだのだ。

以上のように、文字どおり、室中石けん水だらけになって一日中楽しくシャボン玉あそびをした。思う存分あそんだあとの片づけは全員が変ったようによく片づけた。すぐ石けんの水になってしまうバケツの水をかえる子、ぞうきんでふく子、くるくるとよく働いた。「先生ときどき、シャボン玉やろうね」「おもしろかったね。あんたの大きくなったね」「われる時、フスンだってね」など、楽しい会話は長く長くよいんを引いていた。「わー、シャボン玉やるとそーきんがきれーにまっ白になるね、先生」とおどろいた、大発見にみんな大笑いをしていた。

以上の経験から、私は四六名一人のこらずこんなに真けんに取りくんだ活動はないと思う。

・活動をいやがったり、途中でなげ出してしまう子がない。

・どんなに集中力のない子も真けんにシャボン玉を作ろうと努力した。

・このように自然に子どもひとりひとりの小さい創意が全員に浸透していった。

・この活動中、一つのあらそいもおこらなかった（抵抗をあたえない）。
・個々の子どもか問題意識を多く持ち、なんとか解決しようとして、何らかの形で解決していった。（大きくしたり、くっつけたり、ふたこかつくりたい）
・くりかえし、ねはり強く取りあけた。
・素直に個々の子どもか感情を表わしてくれた。

よろこびの感情

・頭だけてよろこぶ
・手足をうこかしてよろこぶ
・体全体でよろこぶ
・体と声とてよろこぶ
・ひとりだけでそっとよろこぶ
・よろこひを友たちにつたえようとする子
・友たちのよろこひを自分もいっしょによろこぶ

困った時の感情

・頭たけて困る
・手足を動かして困る
・体全体で困る。
・体と声で困る。
・ひとりたけで困る。
・友たちに伝えて助けてもらう。
・友たちの困ったのを見て、自分もいっしょに困り、他の子に助けてもらって、いっしょに考える。

などの感情の表わし方をする子があることを具体的にみることができ、今後の指導のよい道しるべを得ることができた。

私たち教師はともすると、シャボン玉は自然の領域で石けんの濃い、薄いをつくって、その関係を知らせたり、風とシャボン玉の関係を知らせたり、吹き方とシャボン玉のでき方を考えさせるので、七月にやれはよいと概念的に（保育行事的に）考えてしまっているのではないでしょうか　私は七月と九月の二回シャボン玉あそびをしてみて、教師の保育活動の年中行事的考え方の片よりとせまさをしみじみと感じさせられたのです。子どもたちは、一回目の経験をもとに活動を発展させていく力を全員が持っていることをはっきり知ったのです　ただし、ほうりっ放しではだめです。環境を整え指導の時期と興味が一致している時に与えなければ、おもしろいように子どもたちは活動を発展させていくことはできないのです。活動の途中で、あまり指導意識を出さず、環境をもりあげてやり、じっくり見守ってやりたいものたと強く感じたのです　教師はもっと子どもの力を信用してまかせたいものです。

（東京・関屋幼稚園）